主の回復における唯一の働き

（土曜日――午前の第二の部）

メッセージ　8

その務めの働き

聖書：エペソ 4:11-32

Ⅰ．主の回復における唯一の働きは、「その務めの働き」です――エペソ 4:12：

Ａ．エペソ第 4 章 12 節において、「キリストのからだの建造へと」という語句は、「その務めの働きへと」という語句と同格です。これは、その務めの働きがキリストのからだの建造であることを示しています：

１．わたしたちの働きは、単に福音を宣べ伝えたり、真理を教えたり、集会を設けたりすることだけではありません。これらの必要な活動はすべて、からだの建造のためです――マルコ 16:15，20．エペソ 4:12，16。

２．キリストのからだの建造のためでない活動はどれも分裂の働きであり、それはその務めの働きのためではありません。

３．その務めの働きは、ただ一つの目標を持っています。すなわち、キリストのからだを建造することです――16 節。

Ｂ．11 節の賜物のある人たちは、ただ一つの務めを持っています。すなわち、キリストを供給して、キリストのからだなる召会を建造することです。これは新約エコノミーにおける唯一の務めです――Ⅱコリント 4:1．Ⅰテモテ 1:12：

１．歴代にわたって、からだの建造のために主に仕えて、キリストを供給した人はみな、さまざまな務めを持っていました。それらの務めはすべて、唯一の新約の務めの一部分でした――Ⅱコリント 4:1．Ⅱテモテ 4:5，11。

２．からだは一つの務めによって、すなわち、唯一の新約の務めによって建造されます――Ⅱコリント 4:1．エペソ 4:12。

３．賜物のある人たちが働きとして行なうことは何であれ、からだの建造のためでなければなりません――12，16 節。

Ｃ．キリストのからだを建造するためのその務めの働きは、賜物のある人たちによって直接、完成されるのではなく、賜物のある人たちによって成就された聖徒たちによって完成されます――11-12，16 節：

１．その務めの働きは、成就する者たちと成就される者たちの両方から成っています――11-12 節。

２．賜物のある人たちは、命の木にしたがって命の供給をもって聖徒たちを養うことによって、彼らを命において成長させ、神聖な分与の中で彼らを成就して、その務めの働きへと至らせます――創 2:9．Ⅰコリント 3:2，6。

３．わたしたちは成就されるために、命と機能に注意を払う必要があります。成就され、完成され、装備され、供給される道は、命において成長し、機能において熟練することです――エペソ 4:11-16。

Ⅱ．わたしたちはその務めの働きを行なって、キリストのからだを建造するとき、「その信仰の一に、また神の御子を知る全き知識の一に到達し、一人の完全に成長した人に到達し、キリストの豊満の身の丈の度量にまで到達する」必要があります——13 節：

A．キリストにある信者として、わたしたちはその霊の一の中へと、すなわち実際の一の中へと生まれました。今、わたしたちは前進して、ついには実行上の一に、すなわち、実行におけるわたしたちの生活の一に到達する必要があります——ヨハネ 3:6．エペソ 4:3，13。

B．13 節の「到達する」という言葉は、わたしたちが実行上の一に到達するために、一つの過程を経過する必要があることを示しています。実際の一は始まりであり、実行上の一は目的地です。

C．実行上の一は、その信仰の一です——13 節：

1．「その信仰」が指しているのは、わたしたちの信じる行為ではなく、わたしたちが信じている事柄です。例えば、キリストの神聖なパースンや、わたしたちの救いのために完成された彼の贖いの働きなどです——Ⅰテモテ 1:19．6:10，12，21．ユダ 3 節。

2．召会の特殊性は、「その信仰」です。召会生活において、わたしたちはただ一つの特殊なもの、すなわち、「その信仰」を持っています。それは、聖書、神、キリスト、キリストの働き、救い、召会に関するわたしたちの信仰から成っています——20 節。

D．実行上の一は、神の御子を知る全き知識の一でもあります——エペソ 4:13：

1．神の御子を知る全き知識とは、神の御子に関する啓示の理解であり、それはわたしたちの経験のためです——マタイ 16:16。

2．その信仰の一は、神の御子を知る全き知識に完全にかかっています。わたしたちがキリストを中心とし、彼に焦点を合わせてはじめて、わたしたちはその信仰の一に到達することができます。なぜなら、神の御子の中でのみ、わたしたちの信仰は一になることができるからです——ヨハネ 20:31．ガラテヤ 1:15-16．2:20．4:4，6．Ⅰコリント 2:2。

E．わたしたちが実行上の一に到達しようとするなら、愛の中で真実を固く保って、すべての事で、かしらであるキリストの中へと成長し込む必要があります——エペソ 4:15。

F．その信仰の一と神の御子を知る全き知識の一は、完全に成長した人であり、またキリストの豊満の身の丈の度量です——13 節：

1．その信仰の一と神の御子を知る全き知識の一に到達するとは、一人の完全に成長した人に到達し、キリストの豊満の身の丈の度量にまで到達することです。このために、わたしたちは神聖の命において成長する必要があります——13-15 節。

2．完全に成長した人は、円熟した人です。実行上の一のためには、円熟を必要とします。

3．キリストの豊満はキリストのからだであり、そのからだには度量を伴う身の丈

があります――1:23．4:13。

Ⅲ．エペソ第 4 章 17 節から 32 節は、その務めの働きを完成してキリストのからだを建造することのできる生活の絵を、わたしたちに与えています：

A．エペソ第 4 章 15 節は、わたしたちがすべての事でキリストの中へと成長し込む必要があると言っています。そして第 4 章の後半が明らかにしているのは、キリストの中でこのように成長して、キリストのからだの建造のためにふさわしい十分な生活をすることの詳細です。

B．第 4 章 17 節から 32 節には、キリストのからだを建造するための、信者の生活の中での神聖な三一の分与を啓示している節が三つあります：

1．18 節は、神の命について語っています。それは彼の神聖な分与の中で、彼の神聖な豊富を彼の子供たちに供給するためです。

2．21 節は、「イエスにあるあの実際」にしたがってキリストを学ぶことについて語っています。それは、彼の神聖な分与の中で、彼の神・人の生活を彼の信者たちに注入するためです：

a．イエスは、神の中で、神と共に、神のためにすべてのことを行なう生活をされました。神は彼の生活の中におられ、彼は神と一でした。これが 21 節の「イエスにあるあの実際」が意味することです。

b．イエスの日常生活には非常に実際的なものがありました。その実際は、神の神聖な命が実際化され、実行されたものであり、イエスの人性の中の真実となりました。

3．30 節は、聖霊の証印を押すことについて語っています。それは、彼の神聖な分与の中で、神聖な要素をキリストの肢体に浸透させるためです。わたしたちはキリストのからだの建造のために、聖霊を悲しませるべきではなく、常にその霊を喜ばせるべきです。

C．キリストのからだの建造のために、わたしたちは思いの霊の中で新しくされる必要があります。思いの霊とは、神の内住の霊とミングリングされたわたしたちの再生された霊です。このミングリングされた霊は、わたしたちの思いの中へと広がって、わたしたちの思いの霊となります。わたしたちはこの霊の中で新しくされて、造り変えられます――23 節．ローマ 12:2。

D．キリストのからだを建造するための生活は、赦す生活でもあります。その務めの働きを行なって、キリストのからだを建造するために、わたしたちは神がキリストにあってわたしたちを赦してくださったように、互いに赦し合う必要があります――エペソ 4:32。

E．わたしたちは、わたしたちがみなその務めの働き、すなわちキリストのからだの建造のために十分で資格のある生活をするように、祈る必要があります――11-32 節。

務めからの抜粋：

聖徒たちを成就してキリストのからだの建造へと至らせる

エペソ人への手紙第 4 章 12 節は、賜物のある人たちがからだに与えられたのは、「聖徒たちを成就して、その務めの働きへと、キリストのからだの建造へと至らせるため」であると告げています。前の節における賜物のある多くの人たちは、ただ一つの務め、すなわち、キリストを供給して、召会であるキリストのからだを建造する務めを持っています。これが新約エコノミーにおける唯一の務めです(Ⅱコリント 4:1．Ⅰテモテ 1:12)。

文法の構造によれば、「キリストのからだの建造へと」という語句は、「その務めの働きへと」という語句と同格です。これは、両方の語句が同じことを指していることを示しています。それゆえに、その務めの働きはからだの建造です。使徒、預言者、伝道者、牧する者また教える者は、聖徒たちを成就して、その務めの働きへと至らせます。12 節の「へと至らせる」という言葉は、という結果になる、の目的で、をもくろんでを意味します。これは、聖徒たちを成就することがキリストのからだを建造するという目的のためであることを意味します。11 節における賜物のある人たちがその務めの働きとして行なうことは何であれ、キリストのからだの建造のためでなければなりません。しかしながら、この建造は賜物のある者たちによって直接、完成されるのではなく、賜物のある者たちによって成就された聖徒たちによって完成されます。

その務めの働きは、成就する者たちと成就される者たちの両方から成っています。すなわち、からだの建造は使徒たちと他の賜物のある者たちだけの働きではなく、すべての成就された聖徒の働きでもあります。キリストのからだを建造する唯一の働きは、おもに賜物のある者たちの責任ではなく、すべての聖徒の責任です。指導的な使徒たちを含む賜物のある者たちと、最も小さい肢体でさえ含むすべての信者の両方は共に働いて、からだを建造します。

賜物のある人たちは聖徒たちを成就するためです。賜物のある人たちは神聖な分与の中で聖徒たちを成就します。それは、すべての聖徒が新約の務めの働き、すなわち、キリストのからだを建造する働きを行なうことができるようになるためです。賜物のある人たちは、命の木にしたがって命の供給をもって聖徒たちを養うことによって、彼らを命において成長させ、神聖な分与の中で彼らを成就して、その務めの働きへと至らせます(創 2:9．Ⅰコリント 3:2、6)。賜物のある人たちは聖徒たちを成就して、自分が行なうことを行なわせ、キリストのからだを直接、建造するようにします。使徒たちが聖徒たちを成就するのは、諸召会を訪問することによって、(使徒 15:36、40-41．20:20、31)、諸召会に手紙を書くことによって(コロサイ 4:16．Ⅰコリント 1:2)、彼らの同労者たちにある場所にとどまって、聖徒たちを成就するように任命することによってです(Ⅰテモテ 1:3-4．3:15．テトス 1:5)。預言者たちが聖徒たちを成就するのは、彼らを教えて主を人々の中へと語り込ませることによって、集

会の中で語って模範を打ち立てることによって、聖徒たちを助けて毎朝復興され、毎日勝利を得ることによって預言する生活をさせることによってです(使徒 13:1．Ⅰコリント 14:31．箴 4:18)。伝道者たちが聖徒たちを成就するのは、彼らをかき立てて、福音を宣べ伝える霊の中で燃やすことによって、福音の真理をもって彼らを教えることによって、彼らを訓練して福音を宣べ伝えさせることによって、聖徒たちを助けてエコノミー上の霊の力で装備されるようにすることによって、罪人を愛し、彼らのために祈る模範を打ち立てることによってです(Ⅱテモテ 4:5)。牧する者また教える者が聖徒たちを成就するのは、牧養することによって、すなわち、若い聖徒たちを養い育て、成長している聖徒たちに教えることによってです(使徒 11:25-26．13:1)。このように成就することの結果は、わたしたちがみな、その信仰の一に、また神の御子を知る全き知識の一に到達し、一人の完全に成長した人に到達し、キリストの豊満の身の丈の度量にまで到達することです(エペソ 4:13．参照、ヨハネ 17:23)。このように成就することは、わたしたちがもはや幼子ではなく、波にもてあそばれたり、教えのあらゆる風によって吹き回されたりすることがないようにします。この教えは、誤りのサタン的な体系をもくろむこうかつな人の悪巧みです(エペソ 4:14)。

わたしたちは成就されるために、命と機能に注意を払わなければなりません。成就される方法とは、命において成長し、機能において熟練することです。12 節で「成就して」と訳されているギリシャ語の言葉は、完成する、装備する、供給するを意味します。聖徒を成就するとは、彼を完成し、装備し、彼に供給することです。命において成長してはじめて、わたしたちは完成されることができます。わたしたちは円熟してはじめて、完成されます。霊的に言って、わたしたちは未成年のままである限り、完成されません。母親は子供を養うことによって成就します。さらに、両親は子供を装備し、訓練してある方法で振る舞わせ語らせることによって彼らに供給します。こうして、子供たちは養われることによって、また訓練されることによって成就されます。神のエコノミーにしたがって聖徒たちを成就することに関しても同じです。聖徒たちが養われる必要があるのは、彼らが神聖な命において成長するためであり、彼らが訓練される必要があるのは、適切な技能をもって機能するためです。わたしたちはみな祈るべきです、「主よ、成就されるようにわたしに願わせ、用意してください。わたしは使徒、預言者、伝道者、牧する者また教える者から成就を受けます」。

わたしたちは、ある人が命において霊的である限り、訓練を必要としないと考えるべきではありません。むしろ、物質の事柄と同じように、霊的な事柄には訓練の必要があります。霊的な事柄において、わたしたちは円熟、命における成長を必要とし、また技能を必要とします。円熟は成長から生じ、技能は訓練から生じます。ですから、聖徒たちを成就するために、わたしたちは霊的な食物をもって彼らを養い、彼らを成長させる必要があり、また彼らを訓練して、ある技能を発展させる必要があります。

すべての聖徒は建造する肢体であるべきです。11 節で述べられている賜物のある者たちは、特別な階級の高官ではありません。そうではなく、彼らが与えられているのは聖徒たちを成就するためです(12 節)。聖徒たちは成就され、装備され、供給さ

れて、その務めの働きへと至る必要があります。成就すること、あるいは装備することは、命における成長と、ある技能における訓練の両方と関係があります。キリストのからだを建造する働きは、使徒、預言者、伝道者、牧する者また教える者によってだけでなく、すべての肢体によって遂行されるべきです。それゆえ、すべての聖徒は建造する肢体となる必要があります。わたしたちは建造された肢体となるだけではなく、またからだを建造する肢体となるべきです。まず、使徒、預言者、伝道者、牧する者また教える者は聖徒たちを成就します。これは、彼らが聖徒たちを建造することを意味します。そして成就された聖徒たちは建造する肢体となります。

16 節でパウロは続けて言います、「この方から、からだ全体は、その豊富な供給のあらゆる節々を通して、またそれぞれの部分の度量に応じた活動を通して、結合され組み合わされ、からだを成長させ、愛の中でそれ自身を建て上げるに至るのです」。ここで「結合され」は、調和することによって結合するという思想を暗示します。「組み合わされ」は、互いに織り込むという思想を暗示します。からだは、供給する節々と活動する部分を通してそれ自身を成長させます。「あらゆる節々」という表現は、11 節で述べられている者たちのような、特に賜物のある人たちを指しており、「豊富な供給」は、特定の供給、すなわち、キリストの供給であるに違いありません。さらに、「それぞれの部分」という表現は、からだのあらゆる肢体を指しています。キリストのからだのあらゆる肢体にはそれ自身の度量があり、それはからだの成長のために働きます。からだの成長は召会におけるキリストの増し加わりであり、それは愛の中でからだ自身を建て上げるという結果になります。

簡潔に言って、キリストは死によってすべての敵を征服し、すべての問題を解決しました。彼は復活を通して、神聖な豊富をすべて解き放ち、彼の昇天を通して、神の選ばれた人々と神聖な豊満を受けました。キリストは昇天の時から働いて、征服された敵を彼のからだのための賜物へと構成しつつあります。まず、彼はこれらの征服された敵に来て、彼らの中へと入ります。次に、彼はご自身をもって徐々に彼らを満たし、浸透します。最後に、かつて彼の敵であった者たちは造り変えられ、有用な賜物へと構成されて、からだにささげられることができるようになります。これらの賜物は他の人たちに教えるだけではなく、キリストを彼らの中へと注入します。このようにして、からだの肢体は養いを受け、はぐくまれます。そして彼らは聖別され、きよめられ、造り変えられて、機能する肢体となります。その結果、からだ全体は、それぞれの部分の度量に応じた活動にしたがって、供給のあらゆる節々によって共に適切に組み合わされ、構成されます。これはからだを成長させ、愛の中でそれ自身を建て上げるに至ります。（新約の結論(20)、メッセージ 340）

賜物のある多くの人が聖徒たちを成就して、同じ一つの建造する働きを行なわせるという一つの務めによって建造される

からだは、賜物のある多くの人が聖徒たちを成就して、同じ一つの建造する働き

を行なわせるという一つの務めによって建造されます(4:7-16)。エペソ人への手紙第 4 章 12 節で述べられたその務めは、パウロがコリント人への第二の手紙第 3 章で言及しており、そこで彼はまた、旧約には一つの務め、すなわち罪定めする務め、死の務めがあると告げました。それは律法の務めです(7-9 節)。旧約時代には、多くの祭司、預言者、王がいましたが、彼らはみな律法の一つの務め、すなわち死へと罪定めする務めにあずかっていました。新約にはもう一つの務め、恵みの務めがあり、それはその霊の務めと義とする務めであり、命の義認へと至ります(Ⅱコリント 3:8-9 . ローマ 5:17 、21)。歴代にわたって、からだの建造のために主に仕えて、キリストを供給した人はみな、さまざまな務めを持っていました。それらの務めはすべて、唯一の新約の務めの一部分でした。からだは一つの務めによって、すなわち、唯一の新約の務めによって建造されます。

からだを建造するために、かしらはある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧する者また教える者として与えました(エペソ 4:11-12)。彼らの働きは、「聖徒たちを成就して、その務めの働きへと、キリストのからだの建造へと至らせるため」です(4:12)。ですから、聖徒たちは、賜物のある人たちによって成就されて、やはりその務めの働きを行なうのです。エペソ人への手紙第 4 章 12 節で、「その務めの働きへと」は、「キリストのからだの建造へと」と同格です。こうして、その務めの働きは、キリストのからだを建造することです。賜物のある人たちは、同じ一つの務めを持っており、キリストのからだを建造します。一つのからだは一つの務めによって建造されます。

今日のキリスト教では、使徒たちの務めとは異なるいわゆる多くの務めが宗派を建て上げています。一つのいわゆる務めは長老派の宗派を建て上げています。もう一つのいわゆる務めはバプテスト派の宗派を建て上げています。さらに、他のいわゆる務めは聖公会やメソジストの宗派を建て上げています。キリスト教には多くの異なる務めがあり、それらは唯一無二の務めの外にあり、唯一無二の務め以外のものであって、分裂に次ぐ分裂という結果になります。

わたしが「一つの務め」と言うとき、この一つの務めはわたしの務めであることを意味するのではありません。しかし、わたしの務めは一つの務めの一部分であると言います。キリストのからだの各肢体は務めを持っており、それは唯一の新約の務めの一部分です。ある姉妹たちは有機的に負担を受けて、集会所を掃除します。この集会所を掃除することは彼女たちの務めであり、それはキリストのからだを建造する働きのための奉仕です。出て行って福音を宣べ伝える聖徒たちは、新約の務めの一部分である彼らの務めを遂行して、キリストのからだを建造しています。かしらは賜物のあるすべての人を与えて、聖徒たちを成就しています。それは、賜物のある人たちが遂行している務めに聖徒たちがあずかって、キリストのからだを建造するためです。聖徒たちを成就することは、彼らの器官を発展させ、キリストの命における成長を通して彼らに機能を備え、供給することです。最終的に、すべての聖徒は、賜物のある肢体と同じ一つの建造する働きを行ないます。聖徒たちは成就されて、その務めの働き

を行ない、キリストにおける彼らの成長によってキリストのからだを直接、建造します。

その務めの働きを遂行することができる生活をして、キリストのからだを建造する

エペソ人への手紙第 4 章 17 節から 32 節は、キリストにおける成長によってキリストのからだをどのように建造するかを見せているもう一つの区分です。15 節は、わたしたちがすべての事でキリストの中へと成長し込む必要があると言います。そして第 4 章の残りは、キリストにおけるこの成長の詳細を明らかにします。それは、キリストのからだの建造のためにふさわしく、また十分な生活をするためです。パウロは、わたしたちはもはや、思いのむなしさの中を歩いて、神の命から遠ざけられている諸国民のように歩くべきではないと告げています(17-18 節)。わたしたちは内側の神の命にしたがって歩くとき、かたくなな心を持っておらず、暗やみの中におらず、わたしたちの良心の感覚を顧み、悪魔に所を得させません(27 節)。わたしたちはまた真理の中を、すなわち、イエスにあるあの実際の中を歩く必要があります(21 節)。神は真理、実際です。エペソ人への手紙第 4 章はまた、わたしたちの以前の生活様式については、わたしたちはあの欺きの情欲によって腐敗している古い人を脱ぎ捨ててしまったと言います(22 節)。欺きは人格化されています。それは欺く者、悪魔を指しており、彼から腐敗した古い人の情欲が出てきます。キリストのからだを建造するために、わたしたちは古い人を脱ぎ捨てて、わたしたちの思いの霊の中で新しくされる必要があります(23 節)。この新しくされることは、わたしたちがキリストのかたちへと造り変えられるためです。わたしたちの再生された霊は、神の内住する霊とミングリングされています。そのようなミングリングされた霊は、わたしたちの思いの中へと広がり、こうしてわたしたちの思いの霊となります。そのような霊の中で、わたしたちは新しくされて造り変えられます。

わたしたちはバプテスマにおいて、古い人と古い生活様式を脱ぎ捨て、また、あの実際の義と聖の中で、神にしたがって創造された、新しい人を着ました(4:24．ローマ 6:6、4 前半．コロサイ 2:11-12)。義とは、神の義なる道にしたがって、神と人に対して正しいことです。聖とは、あらゆる俗なものから神へと分離されて、神の聖なる性質で浸透されることです。わたしたちは義と聖の生活をする必要があります。これは、イエスがこの地上で生きた方法でした。彼は、物事を常に神の中で、神と共に、神のために行なう生活をする者の模範を打ち立てて、ご自身を恵みとして他の人たちに供給しました。わたしたちは、彼の事例にしたがって、自分の天然の命によってではなく、わたしたちの命である彼によって、彼から学びます。わたしたちは必要な建造のために、他の人たちに恵みを与える生活をする必要があります。これは、キリストを他の人たちに供給して彼らの享受また供給とならせ、キリストのからだを建造する生活です(エペソ 4:29)。わたしたちは、腐敗した言葉をわたしたちの口から出すことなく、他の人たちに恵みを与える言葉だけを出すべきです。わたしたちのすべての語りかけにおいて、わたしたちはキリストの豊富を分配すべきです。

キリストのからだを建造するために、わたしたちはまた、聖霊を悲しませないことをも学ばなければなりません。それは彼が、わたしたちの体の贖いの日のために、わたしたちに証印を押し続けることができるためです(30 節)。わたしたちはいつもその霊を喜ばせるべきです。わたしたちの振る舞いのあらゆることは、彼にとって幸いであるべきです。証印を押す霊は、絶えずわたしたちに三一の神の本質と要素をもって証印を押しています。一枚の紙に証印が押されるとき、その紙はインクの本質を受け、また証印の様と形状も受けます。証印を押す霊は、三一の神の本質をわたしたちの中へともたらし、わたしたちに三一の神の様を帯びさせます。

キリストのからだを建造する生活は、赦す生活でもあります。からだの生活を実行するために、わたしたちは互いに赦し合い、互いの罪を忘れ合う必要があります。それは、神がキリストの中でわたしたちの罪を忘れてくださるようにです(32 節後半. ヘブル 8:12)。赦すとは忘れることを意味します。多くの時、わたしたちはまだ古い人の中にいるので、間違いを犯し、他の人たちに対して罪を得ます。こういうわけでわたしたちは、神の霊の中にある神の命によって、他の人たちを赦す必要があります。

エペソ人への手紙第 4 章 17 節から 32 節は、その務めの働きを遂行してキリストのからだを建造することができる生活の絵を与えています。主の回復の中のすべての召会がこのようにして建造されることができるという望み、約束、可能性が多くあります。主がわたしたちを一つからだの実際の中へともたらしてくださいますように。そのからだは、一つの務めによって、無数の聖徒たちをもって建造されます。彼らは成就されて、キリストのからだを建造する働きを行なうのに十分な資格のある生活をします。(キリストのからだ、第 4 章)